

## アーヘン工科大学 大阪大学交流シンポジウム出張報告

平成22年9月9日

金谷茂則

出張先：アーヘン工科大学およびユーリッヒ研究センター、ドイツ

期間：平成22年9月5日～9日

9月6日（月）、7日（火）にアーヘン工科大学で開催されたアーヘン工科大学阪大交流シンポジウムに出席し、アーヘン工科大学における国際交流の取り組みについて調査するとともに、本シンポジウムに参加していた Elling 教授らアーヘン工科大学の先生方と大学院博士後期課程学生

の交流（インターンシップ）について情報交換を行った（写真1、右端が Elling 教授、中央は阪大への留学を希望している大学院生 Ms. Kamerke）。また、本シンポジウム終了後（7日の午後）に、車で30分ほどのところにあるユーリッヒ研究センターを訪問し、デュッセルドルフ



写真1

大学の Jaeger 教授、Pietruszka 教授と学生の交流について情報交換を行った（写真2、左端が Jaeger 教授、右端が Pietruszka 教授）。シンポジウムはアーヘン工科大学キャンパス内の会場（写真3、4）で行われた。アーヘン工科大学、阪大からそれぞれ約10名の教授が講演を行った（写真5）。プログラムは添付のとおり。



写真2

アーヘン工科大学はミュンヘン工科大学、ベルリン工科大学とならぶ世界有数の工科大学である。学生数は33000人、留学生数も5000人と阪大よりかなり大きい。アーヘン工科大学はアーヘン市内にある。アーヘンはカール大帝のもと、ヨーロッパに広がる王国最初の首都となった街で、NRW州の西部に位置する。市の中心部には、ユネスコ世界文化遺産に登録された世界最初の建造物であるあるアーヘン大聖堂（写真6）とゴシック様式の市庁舎（写真7）があり、街のシンボルとなっている。街の人口は25万人にすぎないが、ドイツ、ベルギー、オランダの3カ国に囲まれるという地理的条件が歴

史あるこの街の独特な雰囲気を作り出している。学生が多いことからアーヘンは若さあふれる勢いのある国際都市として発展し続けている。



写真 3



写真 4



写真 5



写真 6



写真 7

生命先端工学専攻は、文科省の大学院教育改革支援プログラム（大学院 GP）（平成 21 年度より組織的な大学院教育改革推進プログラム）を平成 20 年度から 3 年間の予定で実施している。課題名は国際連携大学院 FD ネットワークプログラム（International Collaboration Program of Graduate School for Faculty Development）である。本教育プログラムでは、大学院教員の海外ファカルティ・ディベロップメント (FD) 研修、学生の海外インターンシップ、授業の HP 公開、英語による大学院博士前期課程の講義、演習、研究指導などを実施することにより、大学院教員の英語による教授方法・教育方法を高め、大学院教育の国際化を推進することを目的としている。今回の調査で、ドイツのアーヘン工科大学、デュッセルドルフ大学は大学院博士後期課程学生の阪大との交流を強く希望していることがわかったので、今後具体的な実施方法について検討することとした。

なお、Elling 教授、その PhD 学生 Claudia Kamerke、Jaeger 教授、Pietruszka 教授の所属は以下の通り。

Prof. Lothar Elling  
Department of Biotechnology

Sciences and Helmholtz Institute for Biomedical Engineering  
RWTH Aachen University, Aachen, Germany

Ms. Claudia Kamerke  
PhD student of Prof. Elling

Prof. Karl-Erich Jaeger  
Institute of Molecular Enzyme Technology,  
Heinrich-Heine-University Duesseldorf  
Research Centre Juelich, Juelich, Germany

Prof. Jorg Pietruszka  
Institute of Bioorganic Chemistry,  
Heinrich-Heine-University Duesseldorf  
Research Centre Juelich, Juelich, Germany